

1 時間(場所) 11:10~12:00 (1年D組教室)

2 個人研究テーマ

グローバルな視野で多面的・多角的に社会的事象を捉え、自分ごととして行動する力の育成

3 研究テーマ設定の理由

地球規模で進行する環境問題や不安定な世界情勢、日本の少子高齢化やそれに伴う社会保障費の増大等、現代社会は急速に変化している。このような複雑で変化の激しい社会に生きる社会的存在として、私たちは固有の組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけでなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考える中で、他者と一緒に課題を解決していくための力が必要となる。

このような状況の中で、生徒はよりよい未来や自分の姿を構想し、その実現に向けて国内のみならず地球規模で社会的事象を捉えたり、物事を多面的・多角的に吟味して見定めたりして、自分ごととして行動することが重要である。また、課題解決に向けては、他者に自分の考えを根拠とともに論理的に説明しながら、対話や議論を通じて相手の考えを理解したり自分の考えを広げたりして、多様な人と協働できることが大切である。そして、これらの資質・能力を養うことが、「持続可能な社会」の担い手を育成する上で不可欠と考え、本研究テーマを設定した。

4 単元名 世界の諸地域「アジア州」

5 単元目標

- アジア州の人口における多様な事象を、自然的条件や社会的条件と関連付け、様々な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に影響や地域的特色を考察し、分かりやすく説明できる。
- アジア州で起こっている人口問題の影響を中国を中心に捉え、よりよい社会を実現するための方策を考えることができる。

〔本質的な問い〕

人口の視点から見て、アジア州はどのような特色や問題を持ち、どのような対策が必要な地域なのだろう。

〔永続的な理解〕

世界最大の人口を抱えるアジア州には人口における多様な事象があり、その事象の背景には自然的条件や社会的条件が関連している。人口増加が進行している国もあれば、少子高齢化が進行している国もあり、中国はその二つの事象が同時に起こっている世界でもめずらしい国である。それらの事象の影響や方策を考えることは、少子高齢化が急速に進む国を生きていく私たちにとって、地球規模で起こっている人口の課題を見だし、「よりよい」社会の実現に向けて行動する上で重要である。

6 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒は、授業中に積極的に発表するなど、社会科への学習意欲の高い生徒が多い。学習アンケートの各項目に「よく当てはまる」と答えた生徒は、「グループや全体での話し合い活動で、友達の見方や考えは自分に役に立っている。」の項目で73%と高く、小集団活動や全体の場で仲間の見聞き、自分の考えを広げたり修正したりすることに有用性を感じていることが分かる。一方で、「追求学習をする時に、様々な見方や考え方を使って考えている。」の項目で43%、「社会や世界で起こっている問題に対して解決策を考えたり、自分のできることをしたりしたい。」の項目で、45%とあまり高くない結果であった。このことから、生徒は社会的事象を様々な視点で捉え、事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、課題を把

握して解決に向けて選択や判断したりすることが課題であることが伺える。

本実践では、この課題を踏まえ、事象と多様な背景を関連付けさせ、その影響や方策をこれまで身に付けてきた見方・考え方を働かせながら考察・構想させる活動を意図的に設定し、ねらいに迫らせる必要があると考えている。

(2) 単元について

本単元は、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基にした主題を設定し、それぞれの州の地域的特色を理解させることを主なねらいとしている。アジア州は、6つの州で最も大きな面積を持つ州で、多様な自然環境で環境に合った産業を発達させている。3つの古代文明が発達した地域であり、民族や文化、宗教も様々で、長い歴史の中で広範囲にわたり人々は交流してきた。人口においては、世界の約60%の人口を抱えており各国や地域によって事象も様々であり、本単元ではこの「人口」に軸を置き単元を構成する。特に、世界最大の人口を抱え、日本との関係も深い中国の人口問題を追求の中心とし、アジア全体の地域的特色を把握させる。

中国は、発展途上国で多く見られる人口増加と先進国に多く見られる少子高齢化が同時進行する世界でもめずらしい国である。中国で見られる人口の多様な事象を、自然的条件や社会的条件と関連付け、様々な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に影響を考察させることで、論理的な思考力や表現力を養い、特色や問題を理解させる。また、日本との関係が深く影響力の大きい中国の人口増加や少子高齢化への方策を構想させることは、これからの中国やアジア州全体を考えさせることであり、日本の国土認識を深めさせることにもなる。他人ごとではなく、自分ごととして方策を構想させ、社会の一員としての自覚を高めさせたい。

(3) 指導について

本単元の目標に迫るために、次の2点を工夫しながら指導に当たりたい。

1点目は、持続可能な社会に向けた実践力を育む問題解決的な学習の充実である。まず、単元のねらいを明確にし、一つ一つの学習活動を有機的に結び付けるために、本単元を貫く学習問題「人口の視点から見て、アジア州はどのような特色や問題を持った地域なのだろう。」を設定し、その学習問題を解決するための小さな問いをつなぐことでねらいに迫らせる。その際、「なぜ（意味や原因を探る）」「どのような（特色を探る）」「どのようにすれば（方策を探る）」など、それぞれの学習段階に対応した問いを工夫し、生徒の思考の方向付けに努める。また、アジア州の地域的特色を理解させるために、世界の約60%が集まる「人口」を追求の軸とし、特に今なお人口増加を続け、世界最大の人口を抱え、同時に少子高齢化が急速に進む中国の人口の事象を中心に単元を構成した。そして、その事象をこれまで身に付けさせてきた見方・考え方を働かせながら、多様な自然的条件や社会的条件と関連付けて考察させたり、その事象の影響を追求させたりする活動を通して、多面的・多角的に社会的事象を捉えさせる。更に、既習の知識や概念、事象の背景や影響を根拠とさせ、よりよい社会のための方策を構想させることで、社会の一員としての自覚を養い、「持続可能な社会」を支える資質・能力を育成したい。

2点目は、論理的に思考し表現する学び合いの充実である。質の高い学び合いになるためには、まず個人の追求成果の質を上げる必要であり、その鍵となるものが「見方・考え方」である。中学1年生という発達段階を踏まえ、自然環境、歴史的背景、産業などの見方や比較、分類、統合などの考え方を身に付けさせるために、センテンスカードをあらゆる学習活動の場面で意図的に活用し意識付けを図る。これまで、各州ごとに設けた主題の追求の際に、教師が全ての視点を提示する段階から、少しずつ提示の数を減らし生徒に考え選ばせる段階へと移行してきた。このように培ってきた見方・考え方を働かせながら、追求してきた成果を基に学び合い活動をさせる。小集団活動では、お互いを協働学習者であることを意識させ、主体的に自分の役割を果たさせるために、人口における視点で班を分け、一人一人がその視点のエキスパートになるように工夫する。また、社会の中での立ち位置を明確にさせるために、ワークシートに主語などを記入する欄を設け、6W1Hを意識させたり、特色をまとめる際に定型文を活用したりして、論理的に考え表現させる。そして、より深い理解をさせるために、それぞれの追求成果を小集団と全体の場で持ち寄り、「実現可能性」「実態の一致」「新たな問題の発生」という新たな視点から、練りあい高めあいの活動をさせ、考えをよりよいものにする。これら

の主体的で対話的な活動を通して、深い学びを実現していきたい。

評価に際しては、社会的事象を自分ごととして捉え、論理的な思考力や表現力を発揮しながら持続可能な社会の担い手の一人として行動する力を育成するために、パフォーマンス課題に取り組み、これまで学習してきた知識や概念、身に付けてきた社会的な見方や考え方を生かしながら追求させる。そして、単なる表面的な知識に留まらず、問題を解決する思考力や社会参画の態度の育ちを見取る。

7 評価計画

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①アジア州の地域的な特色や人口問題への方策について、興味・関心を持って主体的に追求しようとする。（関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 あなたは、国連が主催する「子どもサミット」に参加するためにニューヨークにきています。このサミットでは、世界中の各州から集まった子どもにより、毎年決められたテーマについてそれぞれの州で直面する問題が報告されています。今年のテーマは「人口問題」です。みなさんなら、どのような演説をしますか。学習したこと（事実）を根拠として問題を明らかにし、方策を交えたスピーチ原稿を考えなさい。 （評価目標の①②） ○ワークシート（評価目標の①②③） ○ペーパーテスト（評価目標の②③④）
②アジア州や中国の人口における事象を自然的条件や社会的条件と関連させて捉え、多面的・多角的に特色や問題を考察し、他者に分かりやすく説明できる。（思考・判断・表現）	
③学習問題やパフォーマンス課題の追求過程において、様々な資料から必要な地理的事象を読み取り、学習成果をまとめることができる。（資料活用）	
④アジア州の大観する学習を通して、基礎的・基本的な知識を習得し、追求学習により地域的特色を理解する。（知識・理解）	

8 指導計画（全8時間）

次	学習内容	評価規準（観点）	時間
1	アジア州を大観して、基本的な事項を捉えよう。 ○自然環境，地域区分，歴史的背景，産業，結びつき，生活・文化，人口	◇アジア州の大観する学習から、基礎的・基本的な知識を習得し、地域的特色を白地図や文章にまとめることができる。 （資料活用／知識・理解）	2
2	アジア州の人口における地域的特色を中国の事例を中心に追求しよう。 ○人口分布の視点から見た特色や問題 ○人口推移と人口構成の変化の視点から見た特色や問題 ○人口問題への方策 ○アジア州の諸国の人口の特色 ○パフォーマンス課題	◇アジア州や中国の人口における事象を自然的条件や社会的条件と関連させて捉え、多面的・多角的に特色や問題を考察し、他者に分かりやすく説明できる。 （思考・判断・表現） ◇アジア州で起こっている人口問題の影響を自分ごととして捉え、よりよい社会を実現するための方策を主体的に考える。 （関心・意欲・態度） ◇パフォーマンス課題を追求する際に、既習事項を根拠として意欲的に考えて表現している。 （関心・意欲・態度） （思考・判断・表現）	6 本時 (その4)

9 本時の指導（6／8時間）

(1) 主 題 中国の人口問題についての方策を考えよう。

(2) ねらい

- 中国の人口問題の影響に対して、「よりよい」方策を考え表現することができる。
- 人口の視点から見た中国の特色を、多面的・多角的に考察し理解する。

(3) 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・予想させる生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価（方法）
1 前時までの復習をする。 （一斉）	5	○これまでの学習を振り返ろう。 【人口推移】 ・人口が増加し、食料不足や環境汚染などが起きている。 【人口構成の変化】 ・少子高齢化により、労働不足や負担の増加などが起きている。	○前時を振り返らせ、本時の学習に生かせるようにする。
学習問題：人口の視点から見て、中国はどのような特色や問題を持った国なのだろう。			
問い①：人口問題へのよりよい方策を考え、発表しよう。			
2 人口問題に対するよりよい方策を話し合い、発表する。 （小集団） ↓ （全体）	20	【人口推移】 ・国は農村部の経済の発展に力を入れる。 ・企業は有害物質の排出量に規制をかける。 【人口構成の変化】 ・企業はAIを導入する。 ・国は出生制限をなくす。	○論理的な思考と表現力を促すために、ワークシートに方策の「主語」を記入させる欄を設け、立場を明確にさせ、根拠を基に話し合わせる。 ○方策を精選するために、「実現可能性」「妥当性」「新たな問題の可能性」の視点から考えさせる。
問い②：よりよいものにするために、各班からの方策を問い直そう。			
3 よりよい社会を築くために、方策を再考する。 （全体）	5	○各班からの方策をよりよいものにするために、「実現可能性」「妥当性」「新たな問題の可能性」の3つの視点で問い直そう。 ・農村部を開発するために、新たなお金がかかる。 ・出生を無制限にしたら、また増加する。	○社会の形成者の一員としての自覚を持たせるために、各班からの方策を様々な立場や視点から再考させる。 ◇よりよい社会を築くために、中国の人口問題を自分ごととしてとらえ、主体的に方策を述べている。 （ワークシート・観察）
問い③：中国政府は、どのような対策を取ってきたのか確認しよう。			
4 中国政府の対策について確認する。 （一斉）	5	○中国政府の対策を確認しよう。 ・一人っ子政策や二人っ子政策、西部大開発を行っている。	○実際の中国政府の対策を確認させることで、中国の人口問題への理解を深めさせる。
問い④：人口の視点から見て、中国はどのような特色や問題を持った国なのかまとめよう。			
5 中国の人口の特色をまとめ発表する。 （小集団）	15	○中国の人口の特色をこれまでの学習を振り返りまとめよう。	○論理的な思考や表現力を促すために、定型文を用いる。また、思考や決定の過程を視覚化するために、思考ツールを活用する。 ◇中国の人口における特色や課題を、その背景と関連付けながら考え、学習したことを根拠に説明している。 （ワークシート）
授業研究の視点	○学習活動2・3・5は、社会の形成者の一員としての自覚を持たせ、「持続可能な社会づくり」を考える上で効果的であったか。 ○学習活動6は、論理的に思考し表現する力を育成する上で効果的であったか。		

